

病院と地域をむすぶ



パイプライン



2016年5月号

発行：総合病院 南生協病院

4
月
実
績

一日外来患者数：858.0人 一日入院患者数：280.8人 紹介患者数：509人
ベッド稼働率：90.8% 救急車：231台 手術数：108件

緩和ケア病棟が療養を支えています

がんは日本人の死因の3分の1を占める怖い病気です。多くの方が末期になってもできれば住み慣れた家で過ごしたいと希望されています。しかし、痛みや息苦しさなどつらい症状がでたとき、動けなくなったときなど、医療者のそばで過ごす方が安心という方もみえます。そんな方のために緩和ケア病棟があります。

南生協病院の緩和ケア病棟は、組合員ボランティアさんの協力で、自宅にいるようなくつろいだ居心地のよい療養環境を提供しています。2002年6月の開設依頼のべ2000人余りの方が利用されました。新病院になってからは毎年200名余が利用されています。最近は在宅の先生と連携し、自宅療養中に容態が悪化したときの緊急入院の受け入れも行っています。がんの療養でお困りの時は緩和ケア病棟にご相談ください。

南生協病院 院長 長江浩幸

がん専門看護師が支えます

みなさんこんにちは。南生協病院にはがん看護分野の専門看護師が増え、育休中のスタッフを含め現在4人の専門職が在籍します。がん看護専門看護師1名、緩和ケア認定看護師2名、がん性疼痛看護認定看護師1名です。がんの罹患数は年々増加し、2人に1人が、がんに罹患すると言われ、がん看護の普及が必要とされています。私達は、患者様の全人的苦痛を理解し、患者様がその人らしく過ごせるようにケアを考えています。またスタッフの方々にも、がん看護における知識をお伝えし看護実践してもらうことを目標にしています。さらにスタッフの方と情報も共有できるように今年度より毎月通信を発行しています。そしてスタッフの方々からいつでも困ったことは相談できるように環境を整えています。患者様への看護実践、スタッフの方々への教育と相談を私達の役割として考え活動しています。

7B病棟 主任 下里 麻梨子

がんリハビリについて

がんリハビリは専門研修を受けた施設のみが行うことが出来、当院では平成27年1月からがんリハビリができるようになりました。全てのがんの方ががんリハビリの対象ではありません。当院ですと入院されていることが前提で、消化器系の手術後、乳癌の手術後、化学療法を実施した方、末期の状態の方になります。

関わり方は病状に併せて変わります。消化器系の術後であれば、合併症を防ぐために手術翌日から体を起こし、歩く練習や社会復帰支援を行います。乳癌の術後であれば腕をあげる運動や生活指導。化学療法後の方はマシン等を使った体力低下予防の運動。末期の方で自宅退院の方は在宅サービスの調整を行いながら、安全な生活が送れるような支援。当院での看取りの方であれば本人や家族の希望にそった運動や自室ですごしやすい生活の提案などを行っています。「みんなちがってみんないい」の理念を大切に寄り添っています。 リハビリテーション科